

平城宮跡第165次発掘調査

—南面大垣壬生門東地区の調査—

現地説明会資料

昭和60年7月6日

奈良国立文化財研究所

平城宮跡発掘調査部

橋本義則

(1) はじめに

平城宮跡発掘調査部では、平城京条坊の解明、南面大垣の復原整備等にともない、宮南辺部で数次に及ぶ発掘調査（南面大垣・条坊遺構の調査＝第32次・第32次補足・第130次・第143次・第155次、南面大垣とこれに開く門の調査＝第16次・第122次・第133次）を行ってきた。今回は壬生門とその東に取り付く南面大垣の復原整備に先だつ調査で、西は第122次—壬生門—調査区、東は第155次—南面大垣東端—調査区に接する位置である。調査面積は約3150㎡で、調査は3月15日から開始し、現在なお進行中である。

(2) 遺構検出

検出した主な遺構には南面大垣・二条大路・宮内道路・第二次朝堂院南方官衙がある。

*南面大垣SA1200

発掘区中央西端から東端まで75mにわたり南面大垣の築土を検出した。旧市道の高まりがそのまま大垣の築土で最高0.6m残存している。基底部幅は2.7mで掘り込み地業を行い、バラス混りの砂質土と粘質土とを互層に搗き固めている。大垣の北に沿って大垣版築のための堰板を据えた跡と思われる溝状遺構SX05、3条の柱穴列SS06・07・08がある。SS06・07はその位置から添柱と考えられ、SS08は補修時の軒支柱穴の可能性もある。いずれも柱間はふぞろいである。大垣の北1mにある雨落溝SD9488は幅0.8mの素掘りの東西溝で、2時期に区分できる。雨落溝北側に沿って柱穴列SS09がある。この柱穴列は大垣心から北3.8mにあるが、南側の同位置にも柱穴列SS03があり、いずれも足場穴とみられる。但し、第155次調査でSD9488埋土下面で検出したSS9489が大垣構築時の足場穴とみられることから、SS09・03は大垣改修時の足場穴と思われる。大垣南には、犬走りの築土が幅0.7m残存しており、改修の跡がある。改修後の犬走り築土上面には軒支柱穴かと思われる柱穴列SS04があるが、大垣築成にともなう添柱穴はまだ検出していない。なお、大垣の南5.4mでも柱穴列SS02を検

出しているが、対応する柱穴列が大垣の北側になく、その性格を確定するには至っていない。

*二条大路SF1761

大垣の南12mで二条大路北側溝SD1250を検出した。幅3.5m、深さ0.9mの素掘りの東西溝で、北岸の所に護岸の杭が0.3～0.5m間隔で打ちこまれているが、シガラミは検出できなかった。堆積は5層に大別でき、最下層とその上の層から木簡・人形が比較的多く出土した。

*宮内道路SF1761

大垣の北3.6mで宮内道路南側溝SD4100を検出した。幅1.8m、深さ0.5mの素掘りの東西溝で、堆積層から3時期に区分できる。調査区東端では、この溝に幅2mの素掘りの南北溝SD10が合流する。堆積層はSD4100に対応し3時期に区分できる。南側溝の北3mの宮内道路路面上にSX20・27がある。ともに柱間4間で、2.7m等間である。

*第二次朝堂院南方官衙

今回新たに築地塀で画された官衙を確認した。重複関係・検出状況等から大きく2時期に分けることができる。

A期：門SB24と南面の玉石組の雨落溝SD25の一部を検出した。門の本体は調査区の北へ延びるため規模は不明である。他の遺構としては官衙内部からSD4100Aに注ぐ素掘りの南北溝SD26・29がある。

B期：棟門SB21の位置はA期の門より4.8m南へ寄り、規模を若干縮小している。南面には玉石組の雨落溝SD22がある。門に取り付く築地塀SA23は基底部を72mにわたって検出した。基底幅は1.5mで、南と北に幅0.5mの犬走りがある。築地塀は東西両端で北に折れ曲るので、北側には築地で囲まれた官衙の存在が考えられる。築地の内側には東西二面庇付き南北棟と考えられる礎石建物SB28があり、今回はその南妻を検出した。梁行柱間寸法は9尺等間である。これらの遺構はB期を通じて存在するが、築地で囲まれた官衙内から南流する数条の排水溝間の重複関係及びSD4100との重複関係から少なくとも2小期に分けることができる。

(B1期)SD18は官衙東南部の素掘りの溝で築地・宮内道路を木樋の暗渠で抜けSD4100Bに注ぐ。築地の内側では付け換えがある。SD19は門SB21の東13.5mの所をくの字状に曲って流れる溝で、築地の内側では玉石溝、築地部分では二枚重ねの平瓦で蓋を

した木樋の暗渠とし、築地の外側では素掘りの溝となる。B 2期には廃絶したとみられる。SD33は官衙西南部の素掘りの溝で築地を木樋の暗渠で抜け、宮内道路上では再び素掘りの溝となる。

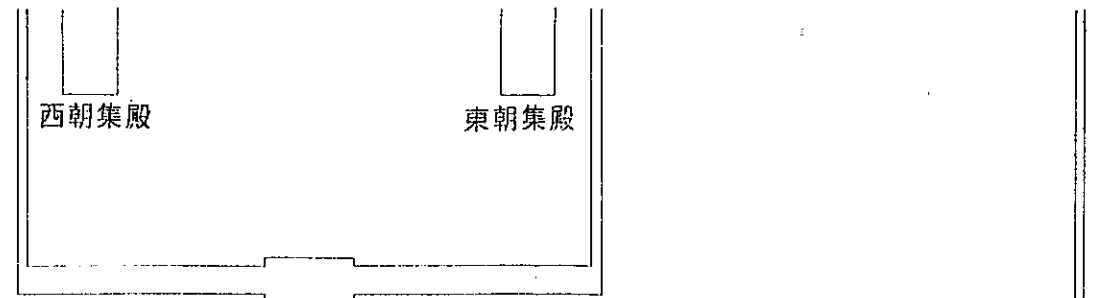
(B 2期) B 1期のSD18・33は築地の内側でそれぞれSD13・30に付け換えられるが、築地部分の暗渠はB 1期のものが踏襲される。築地の外側ではともに東西両岸に磚が立て並べられ、SD4100C へ注ぐ。この時期には築地の内側に平瓦片等を敷いた瓦敷遺構がある。

なお、SD11・12・15はA期、SD16・17・31はB期のそれぞれ官衙造営にともなう排水溝と考えられる。

(3) まとめ

今回の調査で得た主な成果は次の通りである。

1. 南面大垣の改修・補修を示す堰板溝・添柱穴・軒支柱穴・足場穴等を検出したことで、今後の大垣の調査研究及び復原整備にとって重要な資料を得た。
2. 第二次朝堂院南方に新たな官衙を確認し、それが 2時期に及ぶことがわかった。この官衙の実態の解明には今後の調査が待たれる。



第二次朝堂院

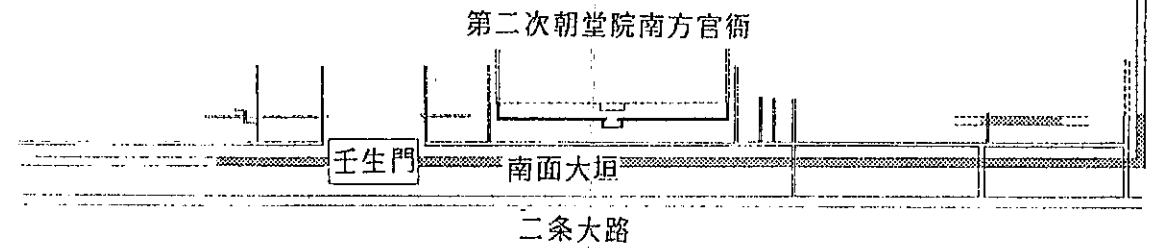


図 2 平城宮東南辺遺構概念図

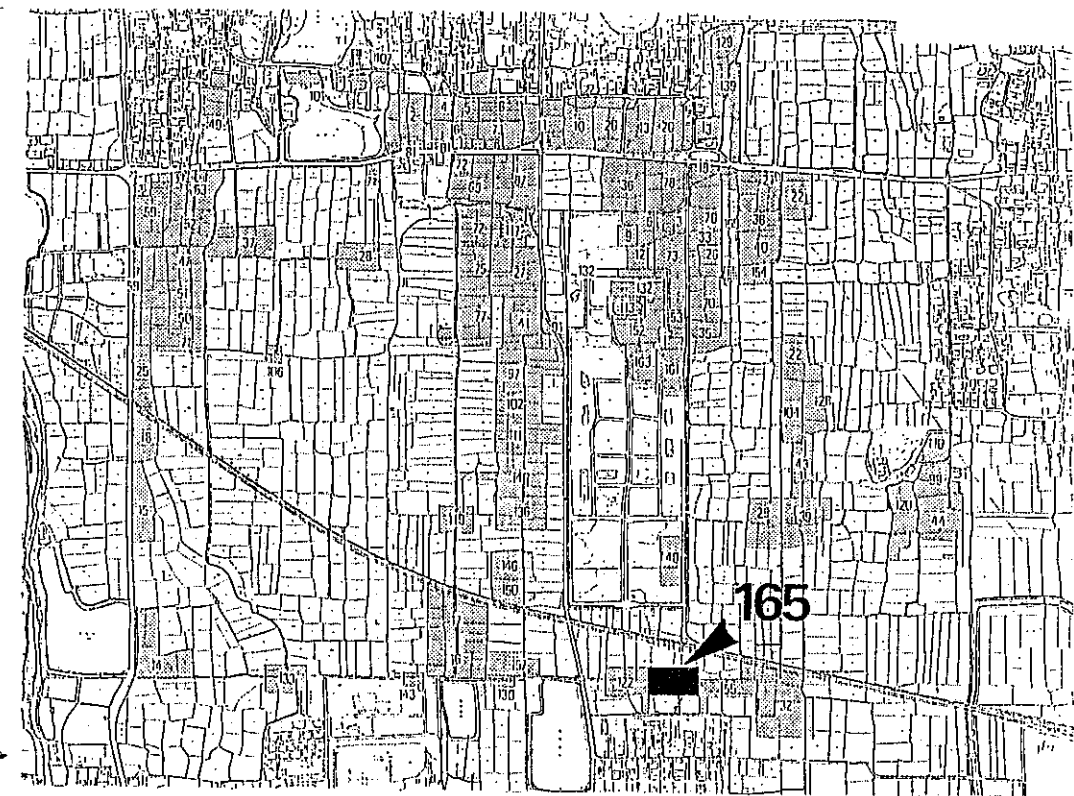


図 1 発掘調査位置図

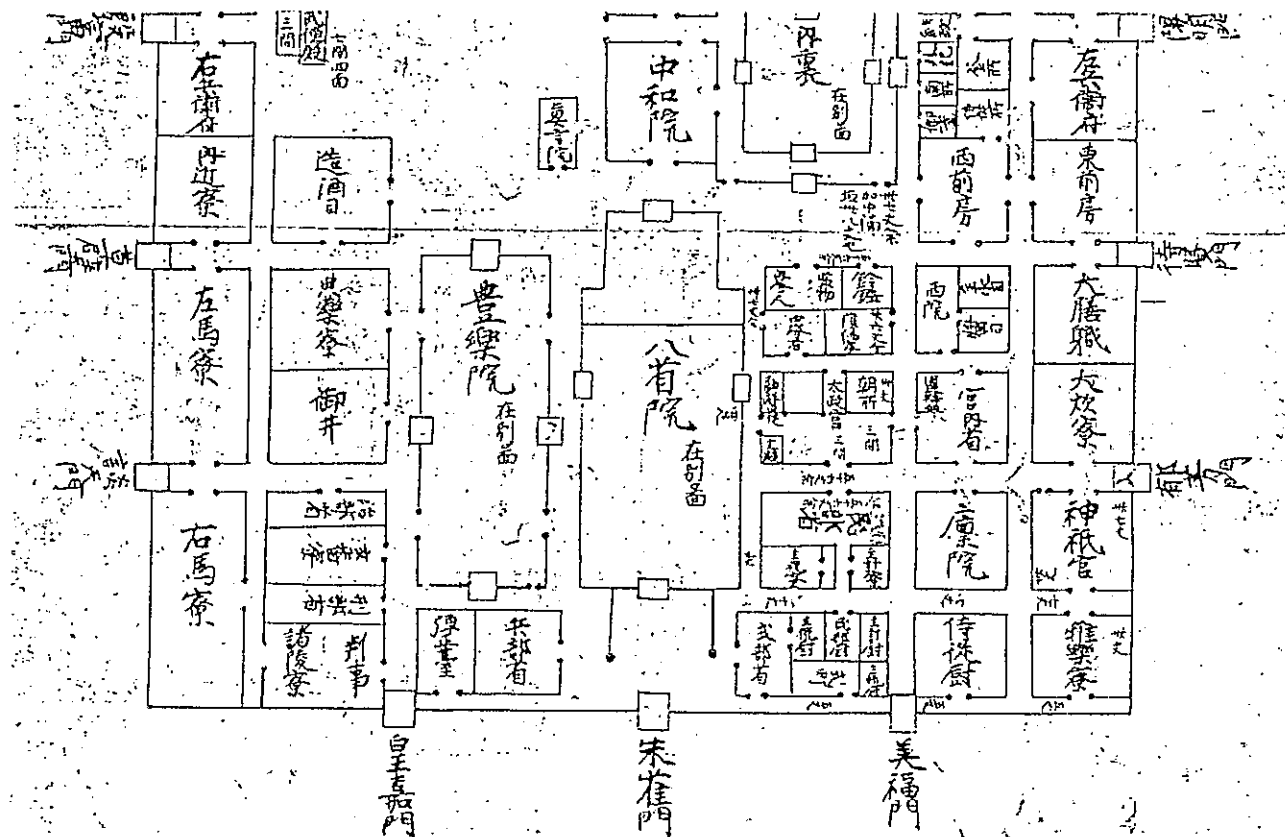


図 3 平安宮宮城図 (陽明文庫本)

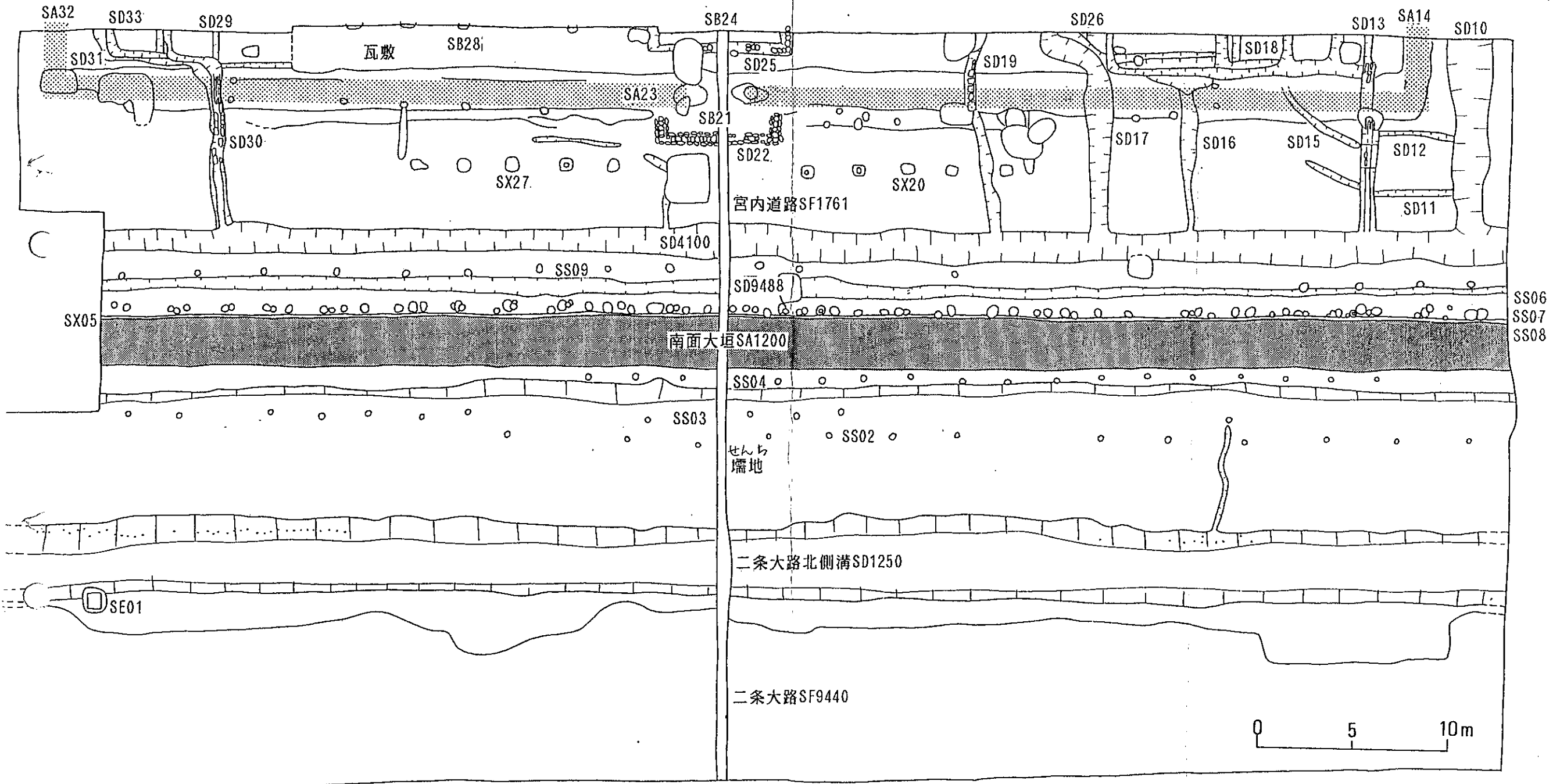


图4 平城宮跡第165次発掘調査遺構図